

15 観光・交流（A案）

（1）現状と課題

これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 「交流」を市政の柱の1つに据えて、多様なレジャー施設などの豊富な観光資源を生かした観光振興に取り組んできました。 ● 民間事業者のノウハウを活用しながら運営の効率化や経営の改善を進めるため、平成22年度に胎内リゾートエリアを中心とする6施設で指定管理者制度を導入し、ロイヤル胎内パークホテルは宿泊・日帰り客の増加、奥胎内ヒュッテは日帰り客の増加、クアハウスとフィッシングパークは利用人数の増加につながりました。 ● 旅行者を受け入れる地域側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する着地型観光を推進するため、関係団体や市民との協働により旅行プランの作成や新たな観光資源の掘り起こしを進めてきました。 ● 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家の方々の協力を得て、豊かな自然とそこに住む人とのふれあいを通して自然・農業・宿泊生活を体験する教育体験旅行や市内小学校のふるさと体験学習を提供してきました。 ● 胎内川新緑まつり、胎内温泉まつり、胎内星まつり、胎内スキーカーニバル、米粉フェスタ in たいない など胎内市への誘客や観光資源・特産品等のPRに寄与する様々なイベントの企画・運営を行って平成20年度の開始以降、体験プログラムの拡充が図られてきました。 ● 観光協会をはじめとする関係団体と連携して、胎内市の観光情報を発信してきました。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光入込客数は、合併当初の約120万人からの増加を目指していましたが、近年は100～110万人の間で横ばいとなっています。内訳としては、県内からの日帰り客が多く、宿泊客は減少傾向にあるのが現状です。 ● 市有施設の多くは、昭和40年代から50年代にかけて建設されており、老朽化が進んでいます。 ● 楡形山脈トレッキングツアーや乙宝寺おまんだらさま法要ツアーなどの様々な着地型観光ツアーや観光モデルコースを開発しました。また、平成26年度から観光ボランティアガイドの育成に取り組み、これまでに11名のガイドと21の観光コースが誕生しました。 ● 農家民泊の受入は市内全小学校、市外3校の計8校、1千人前後で推移しています。 ● イベントの来場者数は平成22年度の約11.7万人から平成26年度の13.7万人へ大きく増加しており、誘客や観光資源等のPRの場として機能しています。 ● 胎内検定実行委員会や板額会などの団体と協力して新潟館ネスパスや名古屋県人会まつりなどに来店し、県外でのPRにも取り組みました。 ● 市内ではエリアマップや看板などの整備を行いました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方創生の考え方の中で、地域資源を生かした収益が見込まれる仕事の1つとして観光への期待が高まっており、まちの魅力をいかにPRし消費を促していくかが課題となっています。 ● 現在の主要なターゲットとなっている県内からの日帰り観光客については、滞在時間や1人当たり消費額の向上を図るために、受入体制の強化も含めた魅力的な観光プランの作成や食・アクティビティ等の魅力向上などの対策が必要です。 ● 新たな宿泊客の獲得のためには首都圏や増加する訪日外国人観光客に向けたPRが必要です。 ● 施設の多くが老朽化に伴って維持管理費の増加や集客の減少という課題を抱えており、閑散期対策による利用率の向上や施設の老朽化対策が必要となっています。

（2）目指すまちの姿

- ◇ 豊かな自然や歴史・文化等を舞台に、おもてなしの心を持った市民と何度も胎内市を訪れるファン、新たな観光客との活発な交流が行われています。

（3）施策展開における行政、市民等との役割分担

- ◇ 行政は、必要なインフラ整備や市営施設の適切な運営とともに、まちぐるみで着地型観光を推進するための合意形成の支援や体制の構築に取り組みます。
- ◇ 市民は、地域の魅力に誇りを持ち、観光客の受け入れに理解を示し、それぞれの立場からおもてなしに協力するよう努めます。

（4）施策の内容

① 魅力的な観光プランの提供

- ◇ 市内の豊富な自然や各種観光資源、歴史・文化資源、イベント等を活用した、真に誘客・消費につながる季節ごと、目的別の重点モデルコースを作成し、店舗やガイド等の受入体制、情報発信も含めたパッケージ化に取り組みます。
- ◇ モデルコースの作成にあたっては、自然保護団体や歴史・文化関連団体、その他の市民、学生等の外部協力者の力を借りて、街並みなどの新しい魅力の掘り起こしや体験プログラムの開発を行います。
- ◇ 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家と連携して、教育体験旅行・ふるさと体験学習の一層の充実を図る受入体制の強化と体験プログラムの提供を継続します。

② 食・アクティビティの魅力向上による消費・販売機会の拡大

- ◇ 物産館や道の駅の経営を改善するため、観光客だけでなく地元消費者のニーズを捉えた商品開発や販売戦略の見直しを行います。
- ◇ 魅力的な飲食施設やレジャー施設を発掘し、観光プランへの反映や積極的なPRを行います。
- ◇ 商店や農業者、食品加工業者等による新たな特産品や飲食施設の開発を支援します。

③ 施設・エリアの閑散期対策等の検討

- ◇ 施設の長寿命化対策とあわせた再整備を行い、施設の有効活用を図ります。運営の効率化に高い効果が期待できる場合には、指定管理者制度の導入を検討します。
- ◇ 特に老朽化の進んだ施設や利用が著しく少ない施設、教育などその他の分野での活用があまり期待できない施設については、廃止や用途変更も含めて今後のあり方を検討します。
- ◇ 鉄道や観光バスで地域を訪れる人のための二次交通の確保を検討します。
- ◇ エリア全体の魅力向上の方策の1つとして、デザイン性の高いサインの整備や景観整備などを検討します。

④ 効果的な戦略の策定と効率的な情報発信

- ◇ 観光に関する統計調査等を活用し、胎内リゾート魅力向上委員会などの関係者との戦略検討に役立てます。
- ◇ 観光協会をはじめとする関係団体と連携して各種メディアへの働きかけやSNSの活用などを強化し、胎内市の観光情報を積極的に発信していきます。
- ◇ 阿賀北地域などの近隣の自治体や観光地と連携して情報発信や集客の強化を図ります。
- ◇ 単独の宿泊施設や商業者では難しい企画や営業を、進めていくために、関係者の交流の場や専門性を持ったDMO等の組織の設立を検討します。

（5）成果指標

指標名	説明	現状 (平成28年度)	中間目標 (平成33年度)	最終目標 (平成38年度)

15 観光・交流（B案）

■目指すまちの姿■

- ◇ 豊かな自然や歴史・文化等を舞台に、おもてなしの心を持った市民と何度も胎内市を訪れるファン、新たな観光客との活発な交流が行われています。

●施策展開における行政、市民等の役割分担●

- ◇ 行政は、必要なインフラ整備や市営施設の適切な運営とともに、まちぐるみで着地型観光を推進するための合意形成の支援や体制の構築に取り組みます。
- ◇ 市民は、地域の魅力に誇りを持ち、観光客の受け入れに理解を示し、それぞれの立場からおもてなしに協力するよう努めます。

（1）現状と課題

これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 「交流」を市政の柱の1つに据えて、多様なレジャー施設などの豊富な観光資源を生かした観光振興に取り組んできました。 ● 民間事業者のノウハウを活用しながら運営の効率化や経営の改善を進めるため、平成22年度に胎内リゾートエリアを中心とする6施設で指定管理者制度を導入し、ロイヤル胎内パークホテルは宿泊・日帰り客の増加、奥胎内ヒュッテは日帰り客の増加、クアハウスとフィッシングパークは利用人数の増加につながりました。 ● 旅行者を受け入れる地域側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する着地型観光を推進するため、関係団体や市民との協働により旅行プランの作成や新たな観光資源の掘り起こしを進めてきました。 ● 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家の方々の協力を得て、豊かな自然とそこに住む人とのふれあいを通して自然・農業・宿泊生活を体験する教育体験旅行や市内小学校のふるさと体験学習を提供してきました。 ● 胎内川新緑まつり、胎内温泉まつり、胎内星まつり、胎内スキーカーニバル、米粉フェスタ in たいない など胎内市への誘客や観光資源・特産品等のPRに寄与する様々なイベントの企画・運営を行って平成20年度の開始以降、体験プログラムの拡充が図られてきました。 ● 観光協会をはじめとする関係団体と連携して、胎内市の観光情報を発信してきました。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光入込客数は、合併当初の約120万人からの増加を目指していましたが、近年は100～110万人の間で横ばいとなっています。内訳としては、県内からの日帰り客が多く、宿泊客は減少傾向にあるのが現状です。 ● 市有施設の多くは、昭和40年代から50年代にかけて建設されており、老朽化が進んでいます。 ● 櫛形山脈トレッキングツアーや乙宝寺おまんたらさま法要ツアーなどの様々な着地型観光ツアーや観光モデルコースを開発しました。また、平成26年度から観光ボランティアガイドの育成に取り組み、これまでに11名のガイドと21の観光コースが誕生しました。 ● 農家民泊の受入は市内全小学校、市外3校の計8校、1千人前後で推移しています。 ● イベントの来場者数は平成22年度の約11.7万人から平成26年度の13.7万人へ大きく増加しており、誘客や観光資源等のPRの場として機能しています。 ● 胎内検定実行委員会や板額会などの団体と協力して新潟館ネスパスや名古屋県人会まつりなどに出演し、県外でのPRにも取り組みました。 ● 市内ではエリアマップや看板などの整備を行いました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方創生の考え方の中で、地域資源を生かした収益が見込まれる仕事の1つとして観光への期待が高まっており、まちの魅力をいかにPRし消費を促していくかが課題となっています。 ● 現在の主要なターゲットとなっている県内からの日帰り観光客については、滞在時間や1人当たり消費額の向上を図るために、受入体制の強化も含めた魅力的な観光プランの作成や食・アクティビティ等の魅力向上などの対策が必要です。 ● 新たな宿泊客の獲得のためには首都圏や増加する訪日外国人観光客に向けたPRが必要です。 ● 施設の多くが老朽化に伴って維持管理費の増加や集客の減少という課題を抱えており、閑散期対策による利用率の向上や施設の老朽化対策が必要となっています。

（2）施策の内容

① 魅力的な観光プランの提供

- ◇ 市内の豊富な自然や各種観光資源、歴史・文化資源、イベント等を活用した、真に誘客・消費につながる季節ごと、目的別の重点モデルコースを作成し、店舗やガイド等の受入体制、情報発信も含めたパッケージ化に取り組みます。
- ◇ モデルコースの作成にあたっては、自然保護団体や歴史・文化関連団体、その他の市民、学生等の外部協力者の力を借りて、街並みなどの新しい魅力の掘り起こしや体験プログラムの開発を行います。
- ◇ 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家と連携して、教育体験旅行・ふるさと体験学習の一層の充実を図る受入体制の強化と体験プログラムの提供を継続します。

② 食・アクティビティの魅力向上による消費・販売機会の拡大

- ◇ 物産館や道の駅の経営を改善するため、観光客だけでなく地元消費者のニーズを捉えた商品開発や販売戦略の見直しを行います。
- ◇ 魅力的な飲食施設やレジャー施設を発掘し、観光プランへの反映や積極的なPRを行います。
- ◇ 商店や農業者、食品加工業者等による新たな特産品や飲食施設の開発を支援します。

③ 施設・エリアの閑散期対策等の検討

- ◇ 施設の長寿命化対策とあわせて再整備を行い、施設の有効活用を図ります。運営の効率化に高い効果が期待できる場合には、指定管理者制度の導入を検討します。
- ◇ 特に老朽化の進んだ施設や利用が著しく少ない施設、教育などその他の分野での活用があまり期待できない施設については、廃止や用途変更も含めて今後のあり方を検討します。
- ◇ 鉄道や観光バスで地域を訪れる人のための二次交通の確保を検討します。
- ◇ エリア全体の魅力向上の方策の1つとして、デザイン性の高いサインの整備や景観整備などを検討します。

④ 効果的な戦略の策定と効率的な情報発信

- ◇ 観光に関する統計調査等を活用し、胎内リゾート魅力向上委員会などの関係者との戦略検討に役立てます。
- ◇ 観光協会をはじめとする関係団体と連携して各種メディアへの働きかけやSNSの活用などを強化し、胎内市の観光情報を積極的に発信していきます。
- ◇ 阿賀北地域などの近隣の自治体や観光地と連携して情報発信や集客の強化を図ります。
- ◇ 単独の宿泊施設や事業者では難しい企画や営業を、進めていくために、関係者の交流の場や専門性を持ったDMO等の組織の設立を検討します。

（3）成果指標

指標名	説明	現状 (平成28年度)	中間目標 (平成33年度)	最終目標 (平成38年度)

15 観光・交流（C案）

■目指すまちの姿■

- ◇ 豊かな自然や歴史・文化等を舞台に、おもてなしの心を持った市民と何度も胎内市を訪れるファン、新たな観光客との活発な交流が行われています。

(1) 現状と課題

これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 「交流」を市政の柱の1つに据えて、多様なレジャー施設などの豊富な観光資源を生かした観光振興に取り組んできました。 ● 民間事業者のノウハウを活用しながら運営の効率化や経営の改善を進めるため、平成22年度に胎内リゾートエリアを中心とする6施設で指定管理者制度を導入し、ロイヤル胎内パークホテルは宿泊・日帰り客の増加、奥胎内ヒュッテは日帰り客の増加、クアハウスとフィッシングパークは利用人数の増加につながりました。 ● 旅行者を受け入れる地域側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する着地型観光を推進するため、関係団体や市民との協働により旅行プランの作成や新たな観光資源の掘り起こしを進めてきました。 ● 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家の方々の協力を得て、豊かな自然とそこに住む人とのふれあいを通して自然・農業・宿泊生活を体験する教育体験旅行や市内小学校のふるさと体験学習を提供してきました。 ● 胎内川新緑まつり、胎内温泉まつり、胎内星まつり、胎内スキーカーニバル、米粉フェスタ in たいない など胎内市への誘客や観光資源・特産品等のPRに寄与する様々なイベントの企画・運営を行って平成20年度の開始以降、体験プログラムの拡充が図られてきました。 ● 観光協会をはじめとする関係団体と連携して、胎内市の観光情報を発信してきました。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光入込客数は、合併当初の約120万人からの増加を目指していましたが、近年は100～110万人の間で横ばいとなっています。内訳としては、県内からの日帰り客が多く、宿泊客は減少傾向にあるのが現状です。 ● 市有施設の多くは、昭和40年代から50年代にかけて建設されており、老朽化が進んでいます。 ● 楡形山脈トレッキングツアーや乙宝寺おまんだらさま法要ツアーなどの様々な着地型観光ツアーや観光モデルコースを開発しました。また、平成26年度から観光ボランティアガイドの育成に取り組み、これまでに11名のガイドと21の観光コースが誕生しました。 ● 農家民泊の受入は市内全小学校、市外3校の計8校、1千人前後で推移しています。 ● イベントの来場者数は平成22年度の約11.7万人から平成26年度の13.7万人へ大きく増加しており、誘客や観光資源等のPRの場として機能しています。 ● 胎内検定実行委員会や板額会などの団体と協力して新潟館ネスパスや名古屋県人会まつりなどに来店し、県外でのPRにも取り組みました。 ● 市内ではエリアマップや看板などの整備を行いました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方創生の考え方の中で、地域資源を生かした収益が見込まれる仕事の1つとして観光への期待が高まっており、まちの魅力をいかにPRし消費を促していくかが課題となっています。 ● 現在の主要なターゲットとなっている県内からの日帰り観光客については、滞在時間や1人当たり消費額の向上を図るために、受入体制の強化も含めた魅力的な観光プランの作成や食・アクティビティ等の魅力向上などの対策が必要です。 ● 新たな宿泊客の獲得のためには首都圏や増加する訪日外国人観光客に向けたPRが必要です。 ● 施設の多くが老朽化に伴って維持管理費の増加や集客の減少という課題を抱えており、閑散期対策による利用率の向上や施設の老朽化対策が必要となっています。

●施策展開における行政、市民等の役割分担●

- ◇ 行政は、必要なインフラ整備や市営施設の適切な運営とともに、まちぐるみで着地型観光を推進するための合意形成の支援や体制の構築に取り組みます。市民は、地域の魅力に誇りを持ち、観光客の受け入れに理解を示し、それぞれの立場からおもてなしに協力するよう努めます。

(2) 施策の内容

① 魅力的な観光プランの提供

- ◇ 市内の豊富な自然や各種観光資源、歴史・文化資源、イベント等を活用した、真に誘客・消費につながる季節ごと、目的別の重点モデルコースを作成し、店舗やガイド等の受入体制、情報発信も含めたパッケージ化に取り組みます。
- ◇ モデルコースの作成にあたっては、自然保護団体や歴史・文化関連団体、その他の市民、学生等の外部協力者の力を借りて、街並みなどの新しい魅力の掘り起こしや体験プログラムの開発を行います。
- ◇ 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家と連携して、教育体験旅行・ふるさと体験学習の一層の充実を図る受入体制の強化と体験プログラムの提供を継続します。

② 食・アクティビティの魅力向上による消費・販売機会の拡大

- ◇ 物産館や道の駅の経営を改善するため、観光客だけでなく地元消費者のニーズを捉えた商品開発や販売戦略の見直しを行います。
- ◇ 魅力的な飲食施設やレジャー施設を発掘し、観光プランへの反映や積極的なPRを行います。
- ◇ 商店や農業者、食品加工業者等による新たな特産品や飲食施設の開発を支援します。

③ 施設・エリアの閑散期対策等の検討

- ◇ 施設の長寿命化対策とあわせて再整備を行い、施設の有効活用を図ります。運営の効率化に高い効果が期待できる場合には、指定管理者制度の導入を検討します。
- ◇ 特に老朽化の進んだ施設や利用が著しく少ない施設、教育などその他の分野での活用があまり期待できない施設については、廃止や用途変更も含めて今後のあり方を検討します。
- ◇ 鉄道や観光バスで地域を訪れる人のための二次交通の確保を検討します。
- ◇ エリア全体の魅力向上の方策の1つとして、デザイン性の高いサインの整備や景観整備などを検討します。

④ 効果的な戦略の策定と効率的な情報発信

- ◇ 観光に関する統計調査等を活用し、胎内リゾート魅力向上委員会などの関係者との戦略検討に役立てます。
- ◇ 観光協会をはじめとする関係団体と連携して各種メディアへの働きかけやSNSの活用などを強化し、胎内市の観光情報を積極的に発信していきます。
- ◇ 阿賀北地域などの近隣の自治体や観光地と連携して情報発信や集客の強化を図ります。
- ◇ 単独の宿泊施設や事業者では難しい企画や営業を、進めていくために、関係者の交流の場や専門性を持ったDMO等の組織の設立を検討します。

(3) 成果指標

指標名	説明	現状 (平成28年度)	中間目標 (平成33年度)	最終目標 (平成38年度)

15 観光・交流（D案）

(1) 現状と課題

これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 「交流」を市政の柱の1つに据えて、多様なレジャー施設などの豊富な観光資源を生かした観光振興に取り組んできました。 ● 民間事業者のノウハウを活用しながら運営の効率化や経営の改善を進めるため、平成22年度に胎内リゾートエリアを中心とする6施設で指定管理者制度を導入し、ロイヤル胎内パークホテルは宿泊・日帰り客の増加、奥胎内ヒュッテは日帰り客の増加、クアハウスとフィッシングパークは利用人数の増加につながりました。 ● 旅行者を受け入れる地域側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する着地型観光を推進するため、関係団体や市民との協働により旅行プランの作成や新たな観光資源の掘り起こしを進めてきました。 ● 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家の方々の協力を得て、豊かな自然とそこに住む人とのふれあいを通して自然・農業・宿泊生活を体験する教育体験旅行や市内小学校のふるさと体験学習を提供してきました。 ● 胎内川新緑まつり、胎内温泉まつり、胎内星まつり、胎内スキーカーニバル、米粉フェスタ in たいない など胎内市への誘客や観光資源・特産品等のPRに寄与する様々なイベントの企画・運営を行って平成20年度の開始以降、体験プログラムの拡充が図られてきました。 ● 観光協会をはじめとする関係団体と連携して、胎内市の観光情報を発信してきました。
現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光入込客数は、合併当初の約120万人からの増加を目指していましたが、近年は100～110万人の間で横ばいとなっています。内訳としては、県内からの日帰り客が多く、宿泊客は減少傾向にあるのが現状です。 ● 市有施設の多くは、昭和40年代から50年代にかけて建設されており、老朽化が進んでいます。 ● 楯形山脈トレッキングツアーや乙宝寺おまんだらさま法要ツアーなどの様々な着地型観光ツアーや観光モデルコースを開発しました。また、平成26年度から観光ボランティアガイドの育成に取り組み、これまでに11名のガイドと21の観光コースが誕生しました。 ● 農家民泊の受入は市内全小学校、市外3校の計8校、1千人前後で推移しています。 ● イベントの来場者数は平成22年度の約11.7万人から平成26年度の13.7万人へ大きく増加しており、誘客や観光資源等のPRの場として機能しています。 ● 胎内検定実行委員会や板額会などの団体と協力して新潟館ネスパスや名古屋県人会まつりなどに来店し、県外でのPRにも取り組みました。 ● 市内ではエリアマップや看板などの整備を行いました。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方創生の考え方の中で、地域資源を生かした収益が見込まれる仕事の1つとして観光への期待が高まっており、まちの魅力をいかにPRし消費を促していくかが課題となっています。 ● 現在の主要なターゲットとなっている県内からの日帰り観光客については、滞在時間や1人当たり消費額の向上を図るために、受入体制の強化も含めた魅力的な観光プランの作成や食・アクティビティ等の魅力向上などの対策が必要です。 ● 新たな宿泊客の獲得のためには首都圏や増加する訪日外国人観光客に向けたPRが必要です。 ● 施設の多くが老朽化に伴って維持管理費の増加や集客の減少という課題を抱えており、閑散期対策による利用率の向上や施設の老朽化対策が必要となっています。

■目指すまちの姿■

- ◇ 豊かな自然や歴史・文化等を舞台に、おもてなしの心を持った市民と何度も胎内市を訪れるファン、新たな観光客との活発な交流が行われています。

●施策展開における行政、市民等の役割分担●

- ◇ 行政は、必要なインフラ整備や市営施設の適切な運営とともに、まちぐるみで着地型観光を推進するための合意形成の支援や体制の構築に取り組みます。市民は、地域の魅力に誇りを持ち、観光客の受け入れに理解を示し、それぞれの立場からおもてなしに協力するよう努めます。

(2) 施策の内容

① 魅力的な観光プランの提供

- ◇ 市内の豊富な自然や各種観光資源、歴史・文化資源、イベント等を活用した、真に誘客・消費につながる季節ごと、目的別の重点モデルコースを作成し、店舗やガイド等の受入体制、情報発信も含めたパッケージ化に取り組みます。
- ◇ モデルコースの作成にあたっては、自然保護団体や歴史・文化関連団体、その他の市民、学生等の外部協力者の力を借りて、街並みなどの新しい魅力の掘り起こしや体験プログラムの開発を行います。
- ◇ 胎内型ツーリズム推進協議会301人会や受入農家と連携して、教育体験旅行・ふるさと体験学習の一層の充実を図る受入体制の強化と体験プログラムの提供を継続します。

② 食・アクティビティの魅力向上による消費・販売機会の拡大

- ◇ 物産館や道の駅の経営を改善するため、観光客だけでなく地元消費者のニーズを捉えた商品開発や販売戦略の見直しを行います。
- ◇ 魅力的な飲食施設やレジャー施設を発掘し、観光プランへの反映や積極的なPRを行います。
- ◇ 商店や農業者、食品加工業者等による新たな特産品や飲食施設の開発を支援します。

③ 施設・エリアの閑散期対策等の検討

- ◇ 施設の長寿命化対策とあわせた再整備を行い、施設の有効活用を図ります。運営の効率化に高い効果が期待できる場合には、指定管理者制度の導入を検討します。
- ◇ 特に老朽化の進んだ施設や利用が著しく少ない施設、教育などその他の分野での活用があまり期待できない施設については、廃止や用途変更も含めて今後のあり方を検討します。
- ◇ 鉄道や観光バスで地域を訪れる人のための二次交通の確保を検討します。
- ◇ エリア全体の魅力向上の方策の1つとして、デザイン性の高いサインの整備や景観整備などを検討します。

④ 効果的な戦略の策定と効率的な情報発信

- ◇ 観光に関する統計調査等を活用し、胎内リゾート魅力向上委員会などの関係者との戦略検討に役立てます。
- ◇ 観光協会をはじめとする関係団体と連携して各種メディアへの働きかけやSNSの活用などを強化し、胎内市の観光情報を積極的に発信していきます。
- ◇ 阿賀北地域などの近隣の自治体や観光地と連携して情報発信や集客の強化を図ります。
- ◇ 単独の宿泊施設や商業者では難しい企画や営業を、進めていくために、関係者の交流の場や専門性を持ったDMO等の組織の設立を検討します。

(3) 成果指標

指標名	説明	現状 (平成28年度)	中間目標 (平成33年度)	最終目標 (平成38年度)